



# 東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校  
令和8年5月21日  
令和8年度 第2号  
<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

## 小さな鉢の、大きな学び

校長 五十嵐 潤

新緑がまぶしい季節となりました。校庭の木々も日に日に緑を濃くしています。子どもたちの元気な声とともに、学校全体に生命の力強さを感じる毎日です。



先日、地域のボランティアの皆様から、学校の花壇整備にご協力いただきました。色とりどりの花が並んだ花壇は、学校を明るく彩り、登校してくる子どもたちの心も和ませてくれます。また、2年生の生活科では、野菜の鉢植え活動を行いました。地域の方から苗の植え方や土の扱い方、水やりのコツなどを丁寧に教えていただき、子どもたちは夢中になって活動していました。自分の手で土に触れ、苗を植え、水をあげながら、目を輝かせて活動していました。「早く大きくなってね。」「早く実ができるといいな。」そんな気持ちが、毎朝、うれしそうに鉢を覗き込む姿に表れています。

人は、自分で手をかけたものに愛情をもちます。自分で植えた花だから大切にしたいくなる。自分で育てた野菜だからもっとおいしくしたいと思う。枯れそうになれば心配し、元気になるでしょう。そうした経験を通して「大事にする」という気持ちが育っていくのだと思います。しかし、それだけではありません。今回の活動の中で、子どもたちは、「自分一人ではできないこと」を、地域の方々に支えていただきながら学びました。植え方を教えてもらう。失敗しそうな時に声をかけてもらう。困った時に助けてもらう。そうした経験は、「誰かに支えられている自分」に気付く機会でもあります。人は、自分が優しくしてもらった経験があるからこそ、今度は自分も誰かに優しくしようと思えるのではないのでしょうか。自分が励ましてもらった経験があるからこそ、困っている人に声をかけられるのではないのでしょうか。その土台となるのは、実際に自分でやってみる経験や周囲の人と関わる経験です。今回、子どもたちのために力を貸してくださったボランティアの皆様の温かな支えの中で、子どもたちは多くのことを学んでいます。

また野菜を育てることは、思い通りにならないことの連続でもあります。水をあげてもすぐには育ちません。天候によって元気がなくなることもあります。それでも毎日世話を続ける中で、子どもたちは「続けることの大切さ」や「すぐに結果が出なくてもがんばり続けること」を学んでいきます。

そうした一つ一つの小さな経験が、やがて子どもたちの人生を支える、大きな根になっていくのだと思います。きれいな花を育てることが目的ではありません。人に優しくできる子を育てること。困難に負けず、また立ち上られる子を育てること。その「根」を大切に育てていきたいと思えます。